

静岡理工科大学 ● 広報誌



キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

2006

7

VOL.30



特集

学生の活躍

電気主任技術者認定コースの開設

第2工作センターの建設

CAMPUS LIFE of SIST

緑豊かな自然と充実した施設の中で、学生はエネルギーに活動しています。

学生同士の会話も弾み、笑顔があふれる大学です。

学生の活躍 Part 1

平成18年1月に東京で開催された「第22回土光杯全日本学生弁論大会」で、情報システム学科3年の藤田稔さんが、最優秀賞の「土光杯」を獲得しました。

本弁論大会のテーマは「日本にあるもの、ないもの」。藤田さんは「努力する心をすべての日本人に」を演題に発表しました。今まで静岡県の大学から出場した学生が土光杯を受賞したことはなく、大変名誉なことです。

大会に出場したきっかけや弁論の内容など、藤田さんと指導教員の小栗勝也講師にお話を伺いました。



左より 小栗勝也講師、藤田 稔さん

司 会：まず、この弁論大会に出場しようとしたきっかけを教えてください。

藤田さん：指導教員の小栗先生から、土光杯の募集記事を見せてもらい出場を勧められました。その時、この弁論大会の内容を知りとても興味を持ちました。

司 会：小栗先生はなぜ藤田さんに出場を勧めたのですか。

小栗先生：昨年の夏から藤田君と接するようになり、今までに多くの苦労を経験した彼なら、何か書けるのではないかと思いました。大会(本選)に出場できないは別として、自分自身について書くことにより彼自身の励みになるのではないかと思ったからです。

司 会：弁論大会への出場が決まり、どのような準備をしましたか。

藤田さん：ゼミの時間や小栗先生の講義の中で時間をもらい、発表の練習をしました。それ以外にも一人で弁論内容を暗記できるくらいに何度も読み返して練習しました。

司 会：大会当日、どんな気持ちでしたか。

藤田さん：会場はとても広く感じ、スポットライトも熱く、今までになく緊張していました。他大学の出場者は弁論部に所属している人が多く、「さすがプロだな」と感じる部分もありました。しかし、自分はいつもの自分らしく、おおげさにならないよう、落ち着いて話すことを心がけました。

司 会：「日本にあるもの、ないもの」というテーマで、藤田さんが一番伝えたかったことは何ですか。

藤田さん：努力する気持ちの大切さです。人生は一度だけですから、「何もしないのはもったいない」ということです。やって後悔するのとやらずに後悔するのは全く違うことですね。何ごとともやってみないと始まらないことを伝えたかった。

小栗先生：今回の受賞では、審査員の質問に対する藤田君の答えが決め手になりました。彼が答えた「努力してもできないことはある。あきらめることも大切な努力だ」という言葉は会場全体に深い感動を与えました。

審査員の方がそう報告して下さっています。障害を負っている彼は「努力しないではいけないことは何一つなかった」という経験をしてきていますので、そんな彼にとって、自分より可能性のある健常者が努力することを忘れていた姿は悲しく映って当然ですね。その思いを自分の言葉で語りかけたことが良かったと思います。

司 会：「土光杯」を受賞したことで周りの反応はどうでしたか。

藤田さん：受賞する前とほとんど変わらないですね。残念です(笑)。でも、友人や家族はとても喜んでくれました。小栗先生のお知り合いの皆さんの反応は大きかったです。

小栗先生：そうですね、新聞記事を見た方で連絡をくださる方が多くいました。例えば袋井市内の会社の社長さんが記事を見て驚き、その方が主催しているセミナーの講師としてお話ししたいとの依頼を受けて、実際この3月に私と二人で講演に行っただけです。その他にも袋井市の小学校のPTAからも講演をお願いされています。

司 会：素晴らしいことですね。では、今後の藤田さんの目標や将来の夢はなんですか。

藤田さん：まずは卒業することですね(笑)。将来の夢は病院の事務で働きたいと思っています。運動することが好きなので、現在も障害者のサッカークラブと野球チームに所属しています。就職をしながらもずっと好きなことを続けていきたいと思っています。そして、自分にできることは何でもやってみようと思います。

司 会：これからも頑張ってください。本日はありがとうございました。

なお、この榮譽を称え、平成18年2月7日(火)に理事長より、本学の学生に与えられる表彰としては最高の「理事長表彰」が授与されました。



学生の活躍 Part2

平成17年度、静岡県西部地域で開催された「ビジネスプランコンテスト」で、機械工学科3年の篠根春貴さんががんばる起業応援ネットワーク主催のコンテストで奨励賞、情報システム学科4年の野末智彦さんが(財)浜松地域テクノポリス推進機構主催のコンテストで期待賞をそれぞれ受賞しました。

篠根さんが提案した「子桜(リブ)」は、小学校の卒業記念品として、母校の桜を小鉢サイズの挿し木にして卒業生に販売するというプラン。また、野末さんが提案した「オンリーワンのアルバム『ピコブック』」は、いつでもどこにでも持っていける小さなサイズで、その人だけのオンリーワンアルバムを作るというプラン。

今回、このプランの発案のきっかけや将来の夢について二人にお話を伺いました。



左より 篠根春貴さん、野末智彦さん

司 会：まず、「ビジネスプランコンテスト」に応募したきっかけを教えてください。

篠根さん：自分の家が自営業をやっている、いつか自分も店を持ちたいと思っていました。「創造・発見」の講義を受講し、ビジネスプラン作成の指導に長けた方から意見をきくことができると聞き、今後の自分の将来に役立つと思ったからです。

野末さん：将来、自分が何をしたいのかまだ決まっていなかったのですが、学生のうちにいろいろなことを経験して自分にあったものを見つけたいという気持ちがありました。そこで、「創造・発見」の講義の中にビジネスプランコンテストという内容があることを知り、参加してアイデアを提案したいと思いました。

司 会：今回のプランの発案のきっかけは何ですか。

篠根さん：親戚が園芸をやっている、そこからヒントを得ました。

野末さん：このプランを思いつくには時間がかかりました。自分の好きなことを軸として様々なことを考えました。偶然、幼稚園のアルバムを見たら、自分がほとんど写っていないことに気がつき、自分メインのアルバムがあったらと考えました。

司 会：プランを作成する上で大変だったことはどういうことですか。

篠根さん：やはりビジネスとして考えると、ただやってみただけをプランにするだけでは通用しません。売上を考えたり、人件費や材料費など、お金の調整が一番大変でした。

司 会：それでは今回「ビジネスプランコンテスト」に応募してよかったことはなんですか。

篠根さん：大勢の前で自分のプランを発表することができたのは大きな自信になりました。

野末さん：起業するための手順や必要なことを学ぶだけでなく、プレゼンの仕方や人との接し方など、社会人としてのマナーや常識も学ぶことができたと思います。普段の講義だけでは学べないことを学ぶことができ、本当にいい経験をさせてもらいました。

司 会：将来の夢はなんですか。

篠根さん：今回のように自分でプランを考え、ビジネスとして立ち上げたいです。現在は介護機器を作ってみようと思っています。

野末さん：今回、ビジネスプランコンテストに参加して、起業して成功することの大変さを知りました。現在、ネットワークとセンサーを使った新しいビジネスプランを考えています。自分の考えたプランに賛同してくれる人たちといつか起業したいと思っています。

司 会：今回、受賞したプランや今後自分のやってみようとするプランが、大きなビジネスにつながっていくように頑張ってください。本日はありがとうございました。

なお、二人には、この栄誉を称え、平成17年12月22日(木)に学長より「学長特別表彰」が授与されました。



遠州灘川雛

大学入り口の桜並木も年々少しずつ生長し、今年も美しい花を咲かせてくれた。今年は桜の開花が早く入学式まで持たないかと思われたが、花冷えのおかげで入学式にも桜を楽しむことができた。

今年の入学式では多くの学部新入生を迎えることができた。これからの生活に期待を抱いた学生。留学してみたいと目を輝かせる学生。初めて親元を離れ、不安な顔をした学生。何だかやる気のなさそうな学生。さまざまなおもて入学してきたことであろう。

春には美しい花を咲かせる桜も、厳しい冬を乗り越えることが出来たからこそである。今年入学してきた学生達も、いろいろな困難を乗り越え成長し、4年後には見事な花を咲かせ卒業して行って欲しいものである。

(T)

電験(電気主任技術者資格検定試験) 電気電子情報工学科が第一種、第三種、第三種 全ての電気主任技術者認定学科になりました!

電気主任技術者って何だろう？

電気保安の観点から、工場などの事業用電気工作物の設置者は電気工作物の工事・維持及び運用に関する保安を監督する電気主任技術者を選任しなくてはならないことが、電気事業法により義務付けられています。電気主任技術者になれば全国いたるところにある電気設備の保安監督と言う大変重要な仕事が出来ます。

電気主任技術者の資格には、第一種、第二種及び第三種電気主任技術者の3種類があり、電気工作物の電圧によって必要な資格が定められています。

事業用電気工作物		
電圧が17万ボルト以上の電気工作物	電圧が5万ボルト以上17万ボルト未満の電気工作物	電圧が5万ボルト未満の電気工作物 (出力5千キロワット以上の発電所を除く)
例) 上記電圧の発電所、変電所、送配電線路や電気事業者から上記電圧で受電する工場、ビル等の需要設備		例) 上記電圧の5千キロワット未満の発電所や電気事業者から上記電圧で受電する工場、ビル等の需要設備
—		第三種電気主任技術者(普通の会社なら、大抵出来る)
—		第二種電気主任技術者(電力関連会社を含め、ほとんど出来る)
第一種電気主任技術者(電力関連会社を含め、すべて出来る)		

資格の取得方法

普通は電気関連専門科目の大変むずかしい筆記試験(H16年度の合格率:第一種 7.1%、第二種11.2%、第三種11.4%)に合格しないと取得できません。本学の電気電子情報工学科電験認定コースを修了すると、その後の実務経験のみで、監督官庁への申請により、上記第一種から第三種までの電気主任技術者の資格が取得できます(毎年約半数の学生が本コースを選択)。

必要な実務経験は次のとおりです(詳しくはhttp://www.jeea.or.jp/e/e_1_2a.html)

種別	実務経験
第一種	電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事・維持または運用:5年以上
第二種	電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事・維持または運用:3年以上
第三種	電圧500ボルト以上の電気工作物の工事・維持または運用:1年以上

本資格は就職に際して非常に有利なことは勿論、独立して個人で事業をするなど、電気技術者としてやり甲斐のある人生につながります。皆さんも「電気主任技術者認定コース」にチャレンジしてみませんか!



第2工作センターの建設

工作センター長
(機械工学科 教授) 大塚 二郎



図1 現工作センター(既存・左手前)、第2工作センター(その裏の2階建て)、すずよクリエイティブハウス(既存・右側)

現在、大学キャンパスの北東にある「工作センター」は、工作実習、研究の為の実験装置の製作、創造・発見*を始めとする授業に利用されています。また、その隣のクラブ用ハウス「すずよクリエイティブハウス」(創作ショップとも呼ばれている)はいくつかのクラブの各種コンテスト等の作品を自主的に製作する場所として使われており、その活動は目を見張るものがあります。この度、以上のようなモノ造り活動をさらに充実させるために、2階建の「第2工作センター」を現工作センターの北側へ今年中に建設することになりました。また、すずよクリエイティブハウスの北側には「エンジン実験棟」も同時に建てられます。

図1のこの四つの建物群(エンジン実験室は見えない)には、「サイト」とか「ゾーン」と名付け、学生が創造・発見を始めとする授業でモノ造りを学ぶほか、「すずよクリエイティブハウス」ではモノ造りコンテスト参加への学生の活発な活動が行われることとなります。

静岡県遠州地区、愛知県三河地区は日本のモノ造りの中心と言っても過言ではありません。今やこの地区で、本学を卒業した先輩が自動車を始め、モノ造りの中核となって働いています。

今回の「第2工作センター」建設により、さらに全学科を通じての工作実習が充実されることとなります。中には5軸マシニングセンターという最高級の工作機械も設置される予定です。その機械を使ってコンピュータを利用した、設計(CAD)加工(CAM)の授業も導入されます。また、複雑・高精度の部品加工も可能になります。ただし、工作機械は高速運動するものも多く、危険を伴うので、利用を希望する学生は技術講習会を受けてライセンスをとってから使用できることとなります。

また、図2のように1階の半分と2階は授業に使用する他に、市民や中高生の為の「化学実験コーナー」や、「電子部品の秋葉原コーナー」を設置することも考えています。創作ショップ運営委員会(益田正委員長)と相談しながらフレキシブルな利用が可能な建物にします。御期待ください。

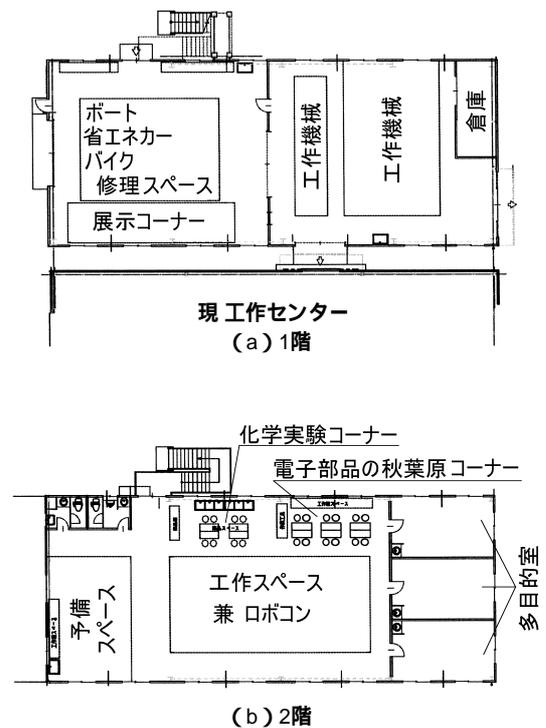


図2 第2工作センターの1階と2階のスペース

*「創造・発見」という授業は、「もの作りと創造活動や研究活動によるアイデアの発見、コンテスト参加や資格取得による自己の発見、ボランティア活動による社会の発見、創意あふれる活動によってたくさんの発見を体験するプログラムです。」

公開シンポジウム

1月28日(土)、『食』の安全について考えよう』をテーマに平成17年度公開シンポジウムを開催しました。

当日は、三井農林株式会社 常務執行役員の原征彦氏と、財団法人食品農医薬品安全性評価センター 第二試験部長の水橋福太郎氏による基調講演の後、パネルディスカッションを行い、参加者も交えて活発な質疑が行われました。



卒業式

3月18日(土) 平成17年度卒業証書・学位記授与式を挙行し、理工学部生367名、並びに大学院生9名が卒業しました。

卒業生を代表して、電子工学科の佐々木誠さんが「大学で得た幅広い知識と責任感を充分に発揮し、広く社会で活躍していきたい」と力強く誓いました。



記念植樹

卒業式前日の3月17日(金) 卒業生代表が近くの愛野公園へ「白木蓮」を記念植樹しました。この植樹は、卒業生が4年間お世話になった袋井市民へのお礼として一期生から毎年行っており、今回で12本目の植樹になりました。



入学式

4月6日(木) 平成18年度入学式を挙行し、学部生・大学院生合わせて366名が入学しました。

新入生を代表して、情報システム学科の榎原智子さんが「大学の伝統を受け継ぎ、21世紀にはばたく科学技術者を目指し努力します」と宣誓しました。



新入生合宿研修

4月11日(火)、12日(水)の1泊2日、新入生・編入生及び教職員合わせて416名が参加し、新入生合宿研修を行いました。学科ごとにジャココ(株)掛川工場、浜岡原子力発電所、掛川市環境資源ギャラリーなどを見学し、宿泊先では全学科とも学科別全体研修と助言教員との懇談を行いました。



SIST企業セミナー

3月10日(金)、4月17日(金)に企業152社の参加をいただき、SIST企業セミナーを開催しました。延べ約600名の学生が参加し、人事担当者との面談に臨みました。学生は熱心な態度で参加をし、多くの企業の方からお褒めの言葉をいただきました。



優秀賞表彰式

1年間の学業成績が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理工科大学優秀賞」の表彰式を5月9日(火)に行い、受賞者30名に学長より表彰状と副賞が授与されました。受賞者は次の通りです。

機械工学科

2年生 井上 達矢 3年生 田村 翔一 4年生 成瀬 信哉
濱田 健吾 松澤 孝太 松下 剣士

電気電子情報工学科

2年生 伊代田 徹 3年生 安本 達矢 4年生 小西 裕介
鈴木 啓之 山下 洋輝 鈴木 一平

情報システム学科

2年生 馬野 靖久 3年生 青嵐 千裕 4年生 大石 利彦
加藤 光 安藤健太郎 木村 陽介
加茂 建一 鈴木 恵 仲秋 孝則
伏見 洋輔 村松 論 中野 幸代

物質生命科学科

2年生 大塩 潤 3年生 西村 宰 4年生 上村 知弘
松田 卓子 水野 知 武田 浩樹



役職者紹介 (平成18年4月1日現在)

学長	塩田 進
学部長	菅沼義昇 (教授)
学生部長	丹羽昌平 (教授)
附属図書館長	玉真昭男 (教授)
機械工学科長	浦田喜彦 (教授)
電気電子情報工学科長	恩田 一 (教授)
情報システム学科長	宮岡 徹 (教授)
物質生命科学科長	古知政勝 (教授)
工作センター長	大塚二郎 (教授)
機器センター長	住谷 實 (教授)
情報センター長	荻野 徹 (教授)
教育開発センター長	桑原宏成 (教授)
事務局長	根津彰弘

人事異動 (平成18年3月31日付退職)

機械工学科	講師	堀出 明広
電気電子情報工学科	助教授	菅谷 諭
教育開発センター	講師	松本 克也
教育開発センター	講師	岡部香代子

お疲れ様でした

Citizens' VOICE [市民の声]

市民のみさんから理工科大へのメッセージを紹介します。

わたしが静岡理工科大学を好きな理由



袋井市教育委員会学校教育課
課長
鈴木一之さん

現在、市内の各学校では「心ゆたかな人づくり」の具現化に向け、地域の特性を活かした特色ある教育活動の推進や教育の連続性・一貫性を重視した取組を展開している。「やらまいか教育」を柱に「地域に貢献する大学」を標榜し、活力に満ちた貴学は、地域の貴重な教育的財産であり、これまで中学生や教員を対象とした理科実験講座や学校における情報教育への支援など、大変お世話になってきた。いずれの事業も好評であり、深く感謝している。さらに本年度から、「大学を生かした学校づくり」事業を立ち上げ、貴学との連携・協力のもと、一層の理科教育の振興を図りたいと考えている。

ところで、私が貴学を好きな最大の理由は「人」にある。教授、職員、学生の皆さんの対応はいつも丁寧で、誠実であり、温かい。「知」と「技」の根底にあるものは、常に世のため人のためを考え、「真・善・美」を求める心であろう。おもてなしの心は貴学に息づいている。この学風に一層の磨きを掛け、輝ける伝統としていってほしい。

知らない世界への期待



ひしだい製茶株式会社
開発部 次長
杉浦宏仁さん

お茶は生葉を刈る、揉む、乾燥、製茶(火入れ)急須で淹れるという一連の流れは昔から変わりありません。しかしながら、近年ペットボトルの普及、顆粒化、粉末茶など技術進歩より急須以外の幅広い飲用形態が出てきました。茶に限らず冷凍食品やカップ麺など、現在当たり前食べられているものはどのように発想され技術を習得したか想像も付きません。私自身食品会社の商品開発に携わる中で茶原料について検討してきましたが、当社販売の「できたて緑茶」というペットボトルのキャップに粉末茶が充填されている新型のペットを開発する際、「茶原料以外にも視点を変えることにより開発する分野がある」と実感しました。この商品化の間、粉の充填技術、キャップ成型などで異業種の方との接点があり、様々なことを理解しなければなりませんでした。このような経験を経て、2月に理工科大学の各研究室を見学する機会がありました。私は研究課題が当社と接点があるか、また何か新しい発見があるか、とても気持ちが高まりました。大学はこのような取り組みをどんどん行っていただき新技術をさらに紹介していただきたい。私は専門性を探求し、幅広い知識を身につけることが基礎となり、「新しい発想へ」と繋がると信じています。更に、開けた大学となることを期待します。

食と心



富士産業株式会社
学生食堂担当
牧嶋末吉さん

私達は学生食堂で皆さんに昼食を提供させて頂いております。学生さんは限られたメニュー内容を限られた予算内で、試行錯誤しながら毎日の食事をされています。皆さんのユニークな発想で料理を注文されて驚かされることもあります。時にはアドバイス等を頂く事もあります。毎日顔を合わせる度に慣れ親しみ、従業員に悩みを相談したり、自分の考えを聞いてもらい、参考にする方もいるようです。食堂が食事の場としてだけでなく、心の触れ合いの場にもなっている事は素晴らしいことだと思います。

食は生活をすいていく上で重要な役割を担っています。人は空腹になると思考力が鈍り、情緒不安定にもなります。食事とは単に空腹を満たすだけでなく、心も満腹にしてこそ本来の大事な役割が果たせるのだと思います。今の社会は仕事優先で食事時間を削られがちですが、皆さん達にはまだまだ時間に余裕があります。その日選んだ料理をしっかりと味わい、心に染込ませる楽しい昼食の時間をぜひ作ってください。

満足のいく食事をするにより心にゆとりができ、学業、研究等あらゆる事に対して全力で立ち向かう事ができ、学生生活をエンジョイする事が出来ると思います。

食を通して、心の中に皆さん自身で栄養を与え、これからの社会に順応できる素晴らしい人になって頂きたいと思います。

サークル紹介

サッカー部

部長 鈴木 圭佑



サッカー部は創部から10年以上の歴史があり、東海2部リーグ昇格を目指して練習や試合などの活動を行っています。

現在は、サッカー経験者から初心者まで幅広い人材が所属しているので、もっとサッカーがうまくなりたいという人はもちろん、これから本格的にサッカーをしたいという人にもやりやすい環境だと思います。

勝つことを目標に活動しているので厳しい練習も行いますが、物事に必死になって取り組むことは決して無駄にはなりません。

興味がある方は、4時限目終了後サッカーのできる格好で駐車場の奥のグラウンドまでお越しください。

機械工学科新設コースの紹介

機械工学科では、平成18年度入学生からカリキュラムを改訂することになりました。主な変更点は、コースを従来の2つ（生産システムコースおよびメカトロニクスコース）から1つ増やして3つとし、新設コース（総合機械工学コース）をJABEEに対応できるようにしたことです。JABEEはJapan Accreditation Board for Engineering Education（日本技術者教育認定機構）の略称で、高等教育機関の教育プログラムが



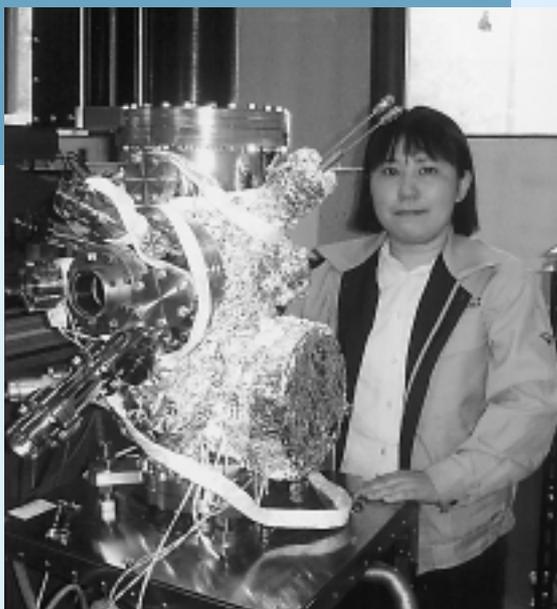
講義「3Dデザイン工学」の一コマ

総合機械工学 コース

育プログラムが国際的な要求基準と水準を満たしているかを審査・認定する第三者機関です。ここで認定されたプログラムの修了生は、技術士になるための1次試験を免除されます。あらゆる面で国際化が進んでおり、世界のどこにでも通用する技術者の資格 - 技術士 - の要求が今後、急速に高まるものと考えられています。

新カリキュラムでは、これを機会に主要科目の授業を2クラスに分けて実施し、よりきめ細かな指導ができるよう工夫しました。また学生が自らモノづくりに取り組むのを支援する実習科目や製図関連科目の充実も図りました。

新カリキュラムでは、これを機会に主要科目の授業を2クラスに分けて実施し、よりきめ細かな指導ができるよう工夫しました。また学生が自らモノづくりに取り組むのを支援する実習科目や製図関連科目の充実も図りました。



物質科学科
2期卒業生
櫻井陽子さん

活躍する卒業生

私は大学卒業後、名古屋大学大学院に進学し、現在は愛知県岡崎市にある分子科学研究所で博士研究員をしています。ここでは、シンクロトン放射光という、光速に近い速度に加速された電子が磁場などで曲げられる時に発生する光を使った実験を行なう施設に所属しています。放射光は赤外からX線までの広い波長領域の光を含みますが、私は主に赤外光を利用して、金属表面に吸着した分子の構造や、分子 - 金属間の相互作用を調べる研究をしています。このような研究分野は物理と化学の境界領域にあり、理工科大で物理と化学の両方を勉強したことが非常に役に立っています。

大学時代は天文部に所属していました。週に数回集まって、空を眺めたり望遠鏡をのぞいたりしました。空が晴れるのを待つ間はメンバー達といろいろなお話をし、このときに他の学科で勉強している内容を知ることができました。

大学や研究所で研究職を続けていくには、任期が限られているため、今後も他の場所に異動する必要がでてきます。場合によっては研究分野が変わることもあります。そのような場合でも柔軟に対応し、面白いテーマを探し続けることができるよう、常に広い視野を持つように心がけていきたいです。

学長特別表彰

平成17年9月10日(土)から10月30日(日)に開催された「第49回東海学生弓道秋季リーグ戦」(主催: 当会学生弓道連盟)において、本学弓

道部男子Aチームが団体優勝に輝きました。

その努力と栄誉を称え、平成18年6月7日(水)に「学長特別表彰」が授与されました。

<受賞学生>

松浦 猛(電気電子情報工学科 4年)、浅井康裕(機械工学科 3年)、秋山幸一郎、岡村壮之、堀内久嗣、田辺悠(情報システム学科 3年)、井伊一斗(物質生命科学科 3年)、中根章宏(情報システム学科 2年)、小木秀人、萩原睦司(物質生命科学科 2年)



平成18年度 春の叙勲

平成3年4月から平成8年3月まで物質科学科の教授としてご活躍された藤田英一先生が、瑞宝中級章を受章されました。



藤田英一先生

学年暦

■学部

前期定期試験	7月25日(火)~8月3日(木)
夏期休業	8月4日(金)~9月25日(月)
前期追・再試験対象者発表	8月24日(木)
前期追・再試験期間	9月1日(金)~9月7日(木)
後期ガイダンス	9月26日(火)
後期授業開始	9月27日(水)
大学祭	10月28日(土)・29日(日)
冬期休業	12月26日(火)~1月8日(月)
後期試験	1月19日(木)~1月29日(月)、2月2日(金)
後期追・再試験対象者発表	2月9日(金)
後期追・再試験期間	2月19日(月)~2月23日(金)
春期休業	2月24日(土)~3月31日(土)
卒業者発表	3月9日(金)
卒業式	3月17日(土)

■大学院

前期定期試験	7月25日(火)~8月3日(木)
夏期休業	8月4日(金)~9月24日(日)
後期履修ガイダンス	9月25日(月)・26日(火)
後期授業開始	9月27日(水)
冬期休業	12月26日(火)~1月8日(月)
後期試験	1月19日(木)~1月29日(月)、2月2日(金)
春期休業	2月24日(土)~3月31日(土)
修了者発表	3月9日(金)
修了式	3月17日(土)

情報システム学科 小栗研究室

おじゃまします。



* 小栗勝也先生のプロフィール

岐阜県関市出身。開学翌年に本学へ赴任。浜松市在住。現在、情報システム学科の「文理融合」型分野の典型例である「メディア情報」を扱う研究室を担当。本来の専攻は近代日本政治史・福祉史ですが、研究のため明治から昭和に至る新聞・雑誌を多数調査してきました。メディアは時代を映す鏡ですから、過去だけでなく「今」を知る上でも格好の材料になります。多くの大学でもマスコミ研究は人気です。学外では新袋井フォーラム事務局長等も担当、地元袋井地域からの情報発信にも協力しています。

新聞の山に囲まれて、ONLY ONEの作業

研究室では今2種類の新聞記事(画像)データベース(DB)を作成中で、学生も卒研に利用しています。中国・台湾関連記事DBは、台湾の大使館に相当する代表処の担当官が毎朝調査し館内で使用された後の新聞記事を頂いて、当研究室で電子スクラップ化したものです。代表処からこの種の資料提供を受けているのは日本ではここだけです。袋井市関連記事DBは、学生が新聞1枚1枚を見て探した記事をまとめたものです。袋井の記事を収集している所も当研究室以外にはどこにもありません。新聞の山に囲まれた研究室で、これ程までに地味な作業と格闘し続けている学生は他にはあまりないと思います。多少の困難でも平気で乗り越えられるような骨太の「逞しい学生」を育てたいと願っています。

研究室学生からひとこと

ゼミ代表4年 萩原光一

小栗研究室では夏休みや春休みにも週1回の勉強会を行い、ゼミ合宿も行っています。不備な点は厳しく指摘され、良くなるまでやり直しが続きます。昨年の大学祭では、研究室で発表用原稿を午前3時まで直した日もありました。ゼミの活動を通じて、自分自身を見つめ直し、知性・品性とともに高めていける研究室だと思います。

研究室訪問

第20回

スポットライト

がんばれ!理工科大生



情報システム学科3年 永井勇太さん(トロンボーン)
 情報システム学科3年 山中大輔さん(テナーサクソ)
 情報システム学科3年 山本達文さん(キーボード)
 情報システム学科3年 木村嘉宏さん(アルトサクソ)
 情報システム学科3年 若月慶太さん(フルート)

僕たちはプラスバンド有志として5人で活動をしています。現在、週に2~3回、平日は1時間半、土曜日は3時間程度の練習をしています。大学に入ってから、ずっと活動したいと思っていましたが、楽器も人も集まらず困っていたところ、先生や事務の方の協力があって、約半年前より活動できるようになりました。

今回、平成17年度卒業式と平成18年度入学式で演奏させてもらえることになり、みんな必死になって練習しました。メンバーの中には初心者もいましたし、長く楽器に触れてない人もいました。話を聞いた時は演奏できる嬉しさよりも、僕たちにできるかどうか不安の気持ちの方が大きかったです。そんな中、教職員の方に支えられ、お互いを励ましあい必死になって練習しました。結果、無事に式典を終えることが出来た時は本当に嬉しく、演奏してとても気持ちが良かったです。このような機会を頂いたことで以前に増して練習活動も活発になり、メンバー一人一人が自分の演奏に自信を持つことができました。そして、何よりメンバー同士の絆も深まりました。

バンドの素晴らしいところは、一人一人が自分のパートを練習し完璧にすることも大切ですが、みんなでそれぞれの音を合わせることで、一人の時とは違う別の音楽を作り出すことができる場所だと思います。バンド活動を通じて、メンバーと協力して音楽を作っていく楽しさを知ることができました。

現在、僕たちは大学祭で演奏することを目標に練習に励んでいます。プラスバンド結成の当初の目的が大学祭で演奏することでした。その目的を達成できるよう頑張ります。

2007年度入試日程

入試種別	出願期間	試験日	可否通知日	入試種別	出願期間	試験日	可否通知日
一般推薦	平成18年10月20日(金)~11月1日(水)	11月11日(土)	11月17日(金)	一般後期[2教科型]	平成19年2月19日(月)~3月8日(木)	3月15日(木)	
一般前期(A)[3教科型]	平成19年1月4日(木)~1月23日(火)	1月30日(火)	2月9日(金)	後期センター試験利用入試(A)[3教科型]	平成19年2月19日(月)~3月12日(月)	本学独自の個別試験はなし	3月21日(水)
一般前期(B)[2教科型]		1月31日(水) 2月1日(木) 《試験日自由選択》		後期センター試験利用入試(B)[2教科型・情報システムのみ]			
前期センター試験利用入試(A)[3教科型]	平成19年1月4日(木)~1月26日(金)	本学独自の個別試験はなし					
前期センター試験利用入試(B)[2教科型・情報システムのみ]							

同窓会 だより

ホームカミングデーの開催

日時：平成18年10月29日(日)
 11:00~12:30 <大学祭2日目>
 会場：本学食堂(体育厚生棟1階)
 参加費：無料

本年も、本学にて第6回ホームカミングデーを開催します。当日は、豪華商品が当たる大抽選会やイベントを企画しています。同窓会員の皆様のご参加をお待ちしています。

同窓会発足10周年記念総会の開催

2月19日(日)に「同窓会発足10周年記念総会」を浜松名鉄ホテルで開催し、90名の同窓会員の皆様にご参加頂きました。

記念講演では、映画「ウォーターボーイズ」でシンクロ総合指導をされていた不破 央(ふわひさし)氏が、「夢を実現する力」と題して講演を行いました。



後援会 だより

父母懇談会の開催

日時：平成18年10月28日(土)
 10:30~ <大学祭1日目>
 会場：本学300講義室
 (学生ホール3階)

父母懇談会では、午前に全体会と学科別懇談会、午後には個別面談(希望者のみ)を開催します。なお、詳細なご案内は9月にお送りする成績表に同封させていただきます。

就任挨拶

4月に開催されました後援会総会において会長に選任されました千葉でございます。後援会は、大学開学と同時に発足し、本学で学ぶ学部生および院生への福利厚生・課外活動・教育活動・就職開拓の援助等を行うことにより、その成果の向上と大学の発展に寄与することを目的とし、活動を続けております。10月には、大学と共催で「父母懇談会」を開催し、後援会会員の皆様に大学の状況やご子弟の学生生活についてより詳しくご説明する予定であります。後援会会員の皆様方のご意向を、役員の皆様と大学事務局の皆様と相談しながら後援会に反映していきたいと考えております。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



後援会長 千葉和史

NHK大学ロボコン 2006 大会出場

6月11日(日)に東京で開催された「NHK大学ロボコン2006大会」に本学のクラブMCFが出場しました。

昨年12月に行われた書類選考による一次審査を通過(51チーム中25チーム)更に、今年の3月にビデオ審査による二次審査を通過(25チーム中18チーム)し、今回の大会(本選)への出場を決めました。

大会当日は、学生の健闘もむなしく、マシントラブルにより予選敗退という残念な結果となりましたが、本学が持ち込んだロボット技術は他大学の学生からの関心も高く、本学学生を含め学生同士が交流する素晴らしい機会になりました。



学生フォーミュラ



2006年9月13日から16日までの4日間、小笠山総合運動公園(エコパスタジアム)で、第4回全日本学生フォーミュラ大会が開催されます。この大会は、(社)自動車技術会が主催し、学生が自らフォーミュラカーを世界共通のルールで設計・作製して競技をおこなうものです。現在、学生フォーミュラ大会は世界各地で開催されており、アメリカ、オーストラリア大会での優勝チームも今回は招待チームとして参加します。また、本大会は単にスピードを競うのではなく、設計技術、コスト、プレゼンテーションでも細かな採点がおこなわれ、技術者としての総合力を競うものです。

今回、SISTフォーミュラプロジェクトは、初参加チームとして参加します。現在、フレームが完成し、エンジンを搭載するところまでたどりつきました。全国で51の強豪大学が参加する中、奮戦する予定ですので是非、応援のほど宜しくお願いします。

SISTフォーミュラプロジェクトのホームページは <http://www.sist.ac.jp/club/f-sae/> です。

編集後記

今回は在学生の活躍を特集しました。全国紙の一面で藤田さんの名前を目にした時は感激しました。ビジネスコンテスト参加者はその後もアイデアが溢れ出るようです。在学生と卒業生の活躍する姿が大学関係者にとっては何よりの喜びです。若い人たちはきっかけをつかむと驚くほどの力を発揮します。そんな大変身をこれからも待ち望んでいます。(K)

静岡理科大学キャンパスニュース
平成18年7月10日発行
企画・編集・発行 / 静岡理科大学広報推進部会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
<http://www.sist.ac.jp>